



子どものために

特別支援教育研究会開催

6月25日、健康科学大学福祉心理学科長・准教授の鈴木真吾先生を講師に研究会を開催しました。特別支援教育コーディネーター・支援学級担任12名、今澤町就学相談員、古屋SSWが参加しました。テーマは、「子どもに関わる関係者との連携について」で、参加した先生方から出された質問や悩み等について鈴木先生が答える形で進められました。



子どものためにできること・することは、まず子どもの理解です。それを受けて、保護者、担任、医師等が、子どもは何を求めているのか、子どものために何ができるか、どうしたらいいのか相談していくことが大切で、そのためには、それぞれがつながっていくことが必要です。相手の思いをどのように受け止めていくのか、「相手の言葉」の向こうにある気持ち(心)をどのようにして引き出すのかなど具体例を挙げて、わかりやすくお話していただきました。「つながる」「つなげる」という連携の中心的な役割を担っている特別支援教育コーディネーターの先生方が多く、障害の特性や対応の方法、校内の連携、保護者との連携、外部機関との連携等の具体的な話に、「わかりやすかった」「今後の方向性が見えてきた」等の感想がありました。多くの先生方にも聞いていただく研修であってほしいという要望も出ました。



今後も、保護者、学校、関係機関が子どものためにより連携を図っていきたいと思います。

- ・傾聴し、受け止めることの大切さ、互いの価値観をすり合わせていくこと等手順や方法がよくわかりました。また、学校の教職員が共有する場を持ち、責任をそれぞれの役割で分担することの大切さもよくわかりました。
- ・具体的な事例をもとに話をしていただき、大変参考になりました。研究会というと、講師の話聞くことが多かったのですが、ディスカッション形式でとてもよかったです。
- ・保護者との対応をどうしたらいいか、現場の事例をもとに教えていただきとても勉強になりました。
- ・様々な事例を聞くことができよかったです。特に、自校の事例について聞くことができ参考になりました。



楽しかった木工教室

7月7日(火)に、大石小学校4年生が木工教室を行いました。前回と同様に新型コロナウイルス感染予防対策をとる中で、子どもたちは思い思いの作品を作り上げていきました。今回も子どもたちの創造力のすばらしさを感じた木工教室でした。校外での活動が少なくなった中で木工教室は子どもたちにとってリフレッシュの機会にもなり、物づくりの楽しさが倍増したようです。この様子は、河口湖CATVが取材撮影しました。

